

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第5559794号
(P5559794)

(45) 発行日 平成26年7月23日(2014. 7. 23)

(24) 登録日 平成26年6月13日(2014. 6. 13)

(51) Int. Cl.	F I
B 6 5 D 47/26 (2006. 01)	B 6 5 D 47/26 D
B 6 5 D 43/03 (2006. 01)	B 6 5 D 43/03
B 6 5 D 77/20 (2006. 01)	B 6 5 D 77/20 T

請求項の数 19 (全 13 頁)

(21) 出願番号	特願2011-526376 (P2011-526376)	(73) 特許権者	503168533
(86) (22) 出願日	平成20年10月13日(2008. 10. 13)		セダ エス. ピー. エイ.
(65) 公表番号	特表2012-501922 (P2012-501922A)		S E D A S. P. A.
(43) 公表日	平成24年1月26日(2012. 1. 26)		イタリア、8 0 0 2 2 アルザノ ナポリ
(86) 国際出願番号	PCT/EP2008/008650		、コルーソ ザルバトーレ デアマト 8
(87) 国際公開番号	W02010/028677		4
(87) 国際公開日	平成22年3月18日(2010. 3. 18)	(74) 代理人	100116872
審査請求日	平成23年9月21日(2011. 9. 21)		弁理士 藤田 和子
(31) 優先権主張番号	202008012116.7	(72) 発明者	ダマート ジャンフランコ
(32) 優先日	平成20年9月12日(2008. 9. 12)		イタリア、8 0 0 2 2 アルザノ ナポリ
(33) 優先権主張国	ドイツ(DE)		、コルーソ ザルバトーレ デアマト
			8 4 セダ エス. ピー. エイ. 内
		審査官	八木 誠
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 容器、特に紙コップのための再密閉可能な蓋

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

容器のための蓋（１）であって、前記蓋（１）は、前記容器の開口端部に取り外し可能に取り付けられ、

内側の出口開口部（２２）を有する下方蓋部（３）と、

外側の出口開口部（３８）を有する上方蓋部（２）と、
を備え、

前記上方蓋部（２）と前記下方蓋部（３）との合わせられた位置において、前記上方蓋部（２）は、少なくとも２つの位置の間で前記下方蓋部（３）に対して回転可能であるので、前記出口開口部（２２、３８）は、１つの位置で相互に位置合わせし、他の位置で重なることはなく、

前記下方蓋部（３）は、前記容器の前記開口端部を重ねるための円周取り付けフランジ（４）を備え、

前記上方蓋部（２）は、前記下方蓋部（３）の前記取り付けフランジ（４）を重ねるための円周取り付けフランジ（２５）を備え、

前記上方蓋部（２）の前記取り付けフランジ（２５）の外周および前記下方蓋部（３）の前記取り付けフランジ（４）の外周は、同じ直径を有する円であり、

前記上方蓋部（２）の前記出口開口部（３８）は、前記下方蓋部（３）の前記出口開口部（２２）と同じ形状および寸法を有し、その両方は前記蓋の中心から同じ距離にあり、

前記上方蓋部（２）および前記下方蓋部（３）の前記出口開口部（２２、３８）は、そ

10

20

れぞれの前記蓋部（２、３）の他の領域に対して突出する突起部（１５、３２）に配置され、

前記突起部（１５、３２）は、前記下方蓋部（３）と前記上方蓋部（２）との合わせられた位置において互いに係合し、

前記突起部（１５、３２）は、各々、円弧部分の形状を有し、

前記上方蓋部（２）の前記突起部（３２）は、前記下方蓋部（３）の前記突起部（１５）よりも円周方向の長さが長く、前記下方蓋部（３）に対する前記上方蓋部（２）の回転移動は、前記上方蓋部（２）の前記突起部（３２）の内側端部と係合する前記下方蓋部（３）の前記突起部（１５）により制限されることを特徴とする、蓋。

【請求項２】

10

前記上方蓋部（２）および前記下方蓋部（３）の前記出口開口部（２２、３８）は、それぞれの前記蓋部（２、３）の前記取り付けフランジ（４、２５）の下方端部（９、４６）によって規定される平面に対して同じ平面に配置されることを特徴とする、請求項１に記載の蓋。

【請求項３】

それぞれの前記出口開口部（２２、３８）が位置する平面から、それぞれの前記蓋部（２、３）の前記取り付けフランジ（４、２５）の下方端部によって規定される平面の距離（Ｄ）は、前記下方蓋部（３）における距離（Ｄ）と、前記上方蓋部における距離（Ｄ）のそれぞれの距離（Ｄ）と実質的に同一であることを特徴とする、請求項１または２に記載の蓋。

20

【請求項４】

前記上方蓋部（２）および／または前記下方蓋部（３）は、円蓋状の蓋領域（１０、２６）を備えることを特徴とする、請求項１～３のいずれかに記載の蓋。

【請求項５】

前記上方蓋部（２）および前記下方蓋部（３）は、前記下方蓋部（３）に前記上方蓋部（２）を回転可能に取り付け、前記上方蓋部（２）および前記下方蓋部（３）をそれらの合わせられた位置に保持するための協働するスライドガイド手段（４０）を備えることを特徴とする、請求項１～４のいずれかに記載の蓋。

【請求項６】

前記スライドガイド手段（４０）は、２つの前記蓋部（２、３）の一方に少なくとも１つの突出している凸部（４１）を備え、各凸部（４１）に対して結合し、協働する溝（４２）を２つの前記蓋部（２、３）の他方に備えることを特徴とする、請求項５に記載の蓋。

30

【請求項７】

前記スライドガイド手段（４０）は、２つの前記蓋部（２、３）の前記取り付けフランジ（４、２５）に、または２つの前記蓋部（２、３）の前記円蓋状の蓋領域（１０、２６）の側方部に隣接して配置されることを特徴とする、請求項５または６に記載の蓋。

【請求項８】

前記凸部（４１）は、結合される前記溝（４２）よりも短く、前記下方蓋部（３）に対する前記上方蓋部（２）の回転移動は、結合される前記溝（４２）の端部で停止される１つまたは複数の凸部（４１）によって制限されることを特徴とする、請求項１～７のいずれかに記載の蓋。

40

【請求項９】

複数のラッチノブ（４４）が、前記容器の開口端部上に前記下方蓋部（３）を留めるために前記下方蓋部（３）の前記取り付けフランジ（４）の内側に設けられることを特徴とする、請求項１～８のいずれかに記載の蓋。

【請求項１０】

隣接するラッチノブ（４４）が、前記下方蓋部（３）の外側から突出しているウェブ（４５）によって互いに離間していることを特徴とする、請求項９に記載の蓋。

【請求項１１】

50

前記下方蓋部（３）の上面（１２）は、凹部（１４）を備えることを特徴とする、請求項１～１０のいずれかに記載の蓋。

【請求項１２】

液体滴下開口部（５０）が、前記下方蓋部（３）の上面（１２）に配置されることを特徴とする、請求項１～１１のいずれかに記載の蓋。

【請求項１３】

前記液体滴下開口部（５０）の方向に誘導する液体排出チャンネル（５１）が、前記下方蓋部（３）の上面（１２）に設けられることを特徴とする、請求項１２に記載の蓋。

【請求項１４】

突出するリブ（５２）が、前記上方蓋部（２）の外側面に設けられることを特徴とする、請求項１～１３のいずれかに記載の蓋。 10

【請求項１５】

前記リブ（５２）は、リブ（５２）の群として設けられることを特徴とする、請求項１４に記載の蓋。

【請求項１６】

前記リブ（５２）は、凸部（４１）の間の部分に配置されることを特徴とする、請求項１４または１５に記載の蓋。

【請求項１７】

前記突起部（１５、３２）によって制限される回転角度は、凸部（４１）と溝（４２）との係合によって規定される回転角度と実質的に対応することを特徴とする、請求項１～１６のいずれかに記載の蓋。 20

【請求項１８】

前記蓋（１）の合わせられた位置において、空隙（４７）が、前記上方蓋部（２）と前記下方蓋部（３）との間の領域の少なくとも一部分に存在することを特徴とする、請求項１～１７のいずれかに記載の蓋。

【請求項１９】

前記蓋（１）の合わせられた位置において、前記上方蓋部（２）および前記下方蓋部（３）が、前記取り付けフランジ（４、２５）の領域、突起部（１５、３２）の領域、および／または協働する凸部（４１）と溝（４２）においてのみで互いに接触することを特徴とする、請求項１～１８のいずれかに記載の蓋。 30

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本発明は、容器、特に紙コップなどの液体飲料を含む容器のための再密閉可能な蓋に関する。この蓋は開くことができ、使用者によって飲料の一部が消費された後、再び密閉することができる。この目的のために、蓋は、出口開口部を開閉するために、下方蓋部と、その下方蓋部に対して回転され得る上方蓋部から組み立てられる。

【背景技術】

【０００２】

40

このような再密閉可能な「二重蓋」、すなわち、上方蓋部および下方蓋部を含む蓋は、特許文献１から知られている。この従来の蓋において、上方蓋部は、容器の消費開口部の端部に取り付けられている。かなり小さい下方蓋部は、外側蓋部の上面の下に配置される。下方蓋部は、上方蓋部の穴を通して突出するピンを備える。このピンをつかむことによって、使用者は、上方蓋部の消費開口部を開閉するために、上方蓋部に対して下方蓋部を回転できる。同様の蓋はまた、特許文献２、特許文献３および特許文献４に開示されている。

【０００３】

このような蓋はいくつかの要求を必要とするが、その一部は互いに相反するものである。まず、蓋は、対応する容器が１メートル以上の高さから床に落ちるような悪条件下でさ 50

えも、液体耐性（liquid-proof）が残っていることを保証しなければならない。この目的のために、蓋の材料が液体に耐性があるだけでなく、蓋を容器に固定して取り付けたままにしなければならない、さらに蓋を壊れないようにしなければならない。さらに、特にファーストフードレストランにおいて、蓋は大量使用のための物品であるので、非常にリーズナブルなコストで製造されなければならないことが義務付けられる。加えて、蓋は、レストランスタッフのために容易に開放可能でなければならない。同様に、本明細書で企図される再密閉可能な蓋はまた、最終使用者にとって容易かつ直接的に開放可能でなければならない。

【0004】

使用中、従来の再密閉可能な蓋は、満足のいく方法で全てのこれらの相反する要求を満たすことができないことが判明している。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献1】米国特許第7, 159, 73282号明細書

【特許文献2】国際公開第2003/013969A2号パンフレット

【特許文献3】米国特許第6, 732, 87582号明細書

【特許文献4】米国特許第7, 156, 25182号明細書

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

従って、本発明の目的は、最適に可能な程度まで上述の要求を満たすことができる容器のための蓋を提供することである。特に、容器の蓋は、安定性および液体耐性などの特性を妥協せずに、効果的なコストで生産できなければならない。

【課題を解決するための手段】

【0007】

この目的は請求項1の特徴を有する蓋によって解決される。本発明の有利な実施形態は従属請求項によって参照される。

【0008】

従来の二重の蓋と比べて、本発明の再密閉可能な蓋はいくつかの方法で改良されている。従来の蓋と対照的に、本発明による蓋の上方蓋部と下方蓋部の両方は、容器の開口端部で重なる。この状態は、蓋の液体耐性および漏出耐性をかなり向上させる。2つの蓋部の一方が、不注意に容器を十分に固定して保持していなくても、完全な蓋の確実な固定が、他の蓋部によりさらに保証される。また、再度、従来の手段と対照的に、液体は上方蓋部と下方蓋部との間の隙間にもはや侵入することができないので、消費開口部から液体が漏出する危険性を減少させる。蓋の安定性は、容器の開口部を完全に覆う上方蓋部と下方蓋部の両方のために向上する。同様の状態はまた、断熱性を高め、再度、従来の蓋と対照的に、2つの壁が、蓋の特定の制限された部分のみで互いに隣接する。

【0009】

特定の簡単な実施形態において、上方蓋部および下方蓋部の取り付けフランジの外周は円形であり、同じ円の直径を有する。このように、蓋は、容器の円形開口部と一致する。しかしながら、取り付けフランジの円周は任意の他の所望の形状を有してもよい。

【0010】

有利な実施形態において、上方蓋部および下方蓋部の出口開口部は、それぞれの蓋部の取り付けフランジの下方端部によって規定される平面に対して平行である平面で互いに配置される。一方、異なる実施形態において、出口開口部が存在する平面は、それぞれの蓋部の取り付けフランジの下方端部によって規定される平面に対して傾いてもよい。

【0011】

それぞれの出口開口部が位置する平面から、それぞれの蓋部の取り付けフランジの下方端部によって規定される平面までの距離は、上方蓋部と下方蓋部との間で同一であっても

10

20

30

40

50

よい。これは、下方蓋部の出口開口部周囲の領域と、上方蓋部の出口開口部周囲の領域との締めばめを確実にするので、この領域の漏出を防止する。代替として、上記の距離は、他方の蓋部において対応する距離よりわずかに短くても、または長くてもよい。特に、それぞれの距離は下方蓋部の材料厚により異なってもよいので、下方蓋部が、出口開口部の周囲の上方蓋部と接触する平面にあり得ることを確実にする。

【0012】

蓋の安定性は、円蓋状の蓋領域を備える上方蓋部および／または下方蓋部により向上し得る。

【0013】

好ましくは、上方蓋部および下方蓋部は、2つの有益な機能を満たす協働するスライドガイド手段を備える。第1に、スライドガイド手段は、上方蓋部を下方蓋部に回転可能に取り付けるように適合される。第2に、スライドガイド手段は、下方蓋部からの上方蓋部の分離を防ぐ力を生じることによって上方蓋部および下方蓋部の合わせられた位置において、上方蓋部および下方蓋部を保持する機能を有する。

10

【0014】

例えば、スライドガイド手段は、2つの蓋部の一方に少なくとも1つの突出する凸部を備え、各凸部に対して結合され、協働する溝を2つの蓋部の他方に備えてよい。上方蓋部の回転移動の間、凸部は溝内でスライドしてもよい。

【0015】

スライドガイド手段を配置するための好ましい領域は、2つの蓋部の取り付けフランジおよび／または、2つの蓋部の円蓋状の蓋領域の隣接する側方部分である。

20

【0016】

特定の実施形態において、凸部は結合される溝より短く、下方蓋部に対する上方蓋部の回転移動は、結合される溝の端部で停止される1つまたは複数の凸部により制限される。上方蓋部の回転移動についてのこのような端部での停止は、使用者の蓋の取り扱いを容易にする。なぜなら、その使用者は、回転可能な上方蓋部がその端部に到達すると、触覚フィードバックを受け取るからである。

【0017】

蓋は、さらに、複数のラッチノブまたは下方蓋部を容器の開口端部に留めるための下方蓋部の取り付けフランジの内側に設けられる突起部によって改良されてもよい。特に、ラッチノブは、容器に対する下方蓋部の取り付けフランジのスナップ式の係合のために適合されてもよい。複数の個々のラッチノブの代わりに、下方蓋部の取り付けフランジはまた、その内周全体にわたってラッチ突起部を有してもよい。

30

【0018】

ラッチノブが設けられる場合、隣接するラッチノブは、下方蓋部の外側から突出するウェブによって互いに離間してもよい。このウェブは、蓋を合わせる間の下方蓋部に対する上方蓋部の取り付けを容易にする。なぜなら、上方蓋部はウェブでスライドできるからである。さらに、ウェブは、下方蓋部の取り付けフランジの安定性を高める。

【0019】

下方蓋部の上面は凹面形状を有してもよく、これは2つの利点を与える。第1に、凹面形状は、上方蓋部と下方蓋部との間の空隙の増加を生じることができるので、蓋の断熱性を高める。第2に、凹面形状は液体の収集を容易にすることができ、これは、上方蓋部と下方蓋部との間の間隔内の通路に見出される。

40

【0020】

好ましくは、上方蓋部と下方蓋部との間に集められた液体が容器内に戻り、それにより、漏出の危険性をさらに減少できるように、液体滴下開口部が下方蓋部の上面に配置される。

【0021】

この機能をさらに改良するために、液体滴下開口部の方向に誘導する液体排出チャンネルが、下方蓋部の上面に設けられてもよい。特に、これらの液体排出チャンネルは、液体滴下

50

開口部の方向に出口開口部の周囲の領域から導かれてもよい。

【0022】

所望の場合、突出しているリブが、上方蓋部の外側面に設けられてもよい。これらの突出しているリブは、特に、使用者が、下方蓋部に対する上方蓋部のより容易な保持および回転をすることができることにより、使用者にとって蓋の取り扱いを容易にすることができる。さらに、リブは、複数の蓋が非常に密接して積み重ねられ得ないことを確実にできる。このいわゆる「入れ子状態から外す（*de-nesting*）」特性は、1つの合わせられた蓋の他方からの分離を容易にするので、レストランスタップにとっての蓋の取り扱いを容易にする。

【0023】

使用者が把持するためのより大きな領域を存在させるために、複数のリブの各々の群でリブを設けることが有益である試験が示される。

【0024】

凸部が上方蓋部に設けられる場合、リブは、好ましくは、その凸部の間の部分に配置され得る。

【0025】

本発明の有利な実施形態において、上方蓋部および／または下方蓋部の出口開口部は、それぞれの蓋部の他方の領域に対して突出する突起部に配置される。特に、この突起部は、蓋の上面の残りの部分から軸方向に突出することができる。突起部は、出口開口部が閉じられている場合でさえも、使用者が、出口開口部の位置を確認するのに役立つ。さらに、出口開口部がこのような突起部に設けられる場合、使用者は、容器からかなり容易に飲むことに気付くだろう。

【0026】

突起部の各々は円弧部分の形状を有することが好ましい。この円弧は、下方蓋部に対する上方蓋部の回転の中心付近で湾曲すべきであり、それにより、上方蓋部の回転の間、上方蓋部の突起部が、下方蓋部の突起部にしっかりと誘導することを確保する。

【0027】

特定の実施形態において、上方蓋部の突起部は、下方蓋部の突起部より円周方向の長さが長く、下方蓋部に対する上方蓋部の回転移動は、上方蓋部の突起部の内側端部と係合する下方蓋部の突起部により制限される。このように、上方蓋部が2つの回転停止位置の一方に到達すると、使用者は、強い触角フィードバックを受け取る。

【0028】

好ましくは、突起部によって制限される回転角度は、凸部と溝との係合によって規定される回転角度と実質的に対応する。突起部および協働する凸部と溝が、互いに対して正確な円周位置に配置される場合、上方蓋部の回転移動は、複数の停止手段によって両方の方向で停止する。

【0029】

蓋の断熱性をかなり高めるために、空隙が、蓋の合わせられた位置において上方蓋部と下方蓋部との間の領域の少なくとも一部に存在してもよい。特に、このような空隙は、この領域の大部分にわたって存在してもよい。特に、二重壁の容器に関して、このように構成される蓋は、容器内の液体からの熱の放出をしっかりと防ぐことができる。同時に、この構成は、上方蓋部の外側面が、容器内の熱い液体（例えばお茶、コーヒなど）と接触することを防ぐので、使用者が非常に熱いものと触れることはない。

【0030】

蓋の合わせられた位置において、上方蓋部および下方蓋部が、取り付けフランジの領域、突起部の領域、および／または協働する凸部および溝の領域のみで互いに接触する場合、最も高い断熱性が達成され得る。

【0031】

ここで、本発明の有利および好ましい実施形態が添付の図面に対して記載される。

【図面の簡単な説明】

10

20

30

40

50

【0032】

【図1】図1は、分解した位置における本発明による蓋の蓋部の斜視図を示す。

【図2】図2は、合わせられた位置における本発明の上方蓋部と下方蓋部の第1の実施形態による部分断面図を示す。

【図3】図3は、合わせられた位置における第2の実施形態の上方蓋部と下方蓋部による部分断面図を示す。

【図4】図4は、合わせられた位置における第3の実施形態の上方蓋部と下方蓋部による部分断面図を示す。

【図5】図5は、出口開口部の位置における第1または第2の実施形態の上方蓋部および下方蓋部による部分断面図を示す。

【図6】図6は、下方蓋部の上面の拡大図を示す。

【図7】図7は、積み重ねられた関係の2つの組み立てられた蓋を示す。

【発明を実施するための形態】

【0033】

同様の要素および構成は、全ての図面にわたって同様の参照番号が付されている。

【0034】

図1は、本発明の蓋1の一実施形態の斜視図を示す。蓋1は、上方蓋部2および下方蓋部3を備え、それらの分解した位置で図1に示す。

【0035】

下方蓋部3は円周取り付けフランジ4を備え、下方蓋部3と合わせられた上方蓋部2を有しても、有しなくても、下方蓋部3は、容器、特に紙コップなどの飲料容器の端部に円周取り付けフランジ4が取り付けられてもよい。このような取り付けの詳細に関して、注意すべき点が、例えば欧州特許第1787916 A1号または欧州特許第1367001 A1号に示されているが、これらの文献は再密閉できない単一の蓋を開示しているだけである。

【0036】

図2～4に詳細に示すように、下方蓋部3の取り付けフランジ4は、（任意の）水平部5、紙コップのロールした端部の湾曲（示さず）に対応する湾曲部6、湾曲部の残りの部分より、下方蓋部3の中心軸から小さい半径方向距離を有するくびれ部7（このくびれ部7は容器の開口端部の下にスナップ式で係合することを意図する）、傾斜部8、および最終的に下方水平部9を備える。

【0037】

取り付けフランジ4に加えて、下方蓋部3は、側方壁11および上面12を有する中心の円蓋状の蓋領域10を備える。上面12は概して水平の環状部13を備える。環状部13は、上面12の凹部または窪み部14を囲む。

【0038】

突起部15は上面12の環状部13から突出する。上面図において、突起部15は、下方蓋部3の対称軸Aが中心である円弧部分の形状を有する。突起部15は、外側側方壁16、反対側の内側側方壁17（例えば図6）、第1の端壁18、第2の端壁19（例えば図6）、および上壁20を備える。上壁20は概して平面であり、第1の閉部21および出口開口部22を有する第2の部分の備える。

【0039】

上方蓋部2は別の取り付けフランジ25を有する。図6、7に示すように、取り付けフランジ25は、蓋1を合わせた位置において下方蓋部3の取り付けフランジ4と重なるように適合される。取り付けフランジ25に加えて、上方蓋部2は、概して、下方蓋部3の円蓋状の蓋領域10とその外形において一致する中心の円蓋状の蓋領域26を有する。特に、上方蓋部2の円蓋状の蓋領域26は側方壁27および上面28を備える。上面28は、概して、円形の凹部または窪み部30を囲む水平環状部29を備える。

【0040】

凹部30は、複数の凸状の反転部31を有する。これらの凸部は押し下げることができ

10

20

30

40

50

るので、蓋 1 に覆われている現在の容器に保持されている飲料の種類を示すためにレストランスタッフによって凹部に変えられることができる。

【0041】

下方蓋部 3 の環状部 13 と同様に、上方蓋部 2 の環状部 29 は突起部 32 を有する。上面図において、突起部 32 は円弧部分の形状を有する。突起部 32 は、外側側方壁 33 および反対側の内側側方壁 34 を有し、その両方は、上方蓋部 2 の対称軸、すなわち下方蓋部 3 に対する上方蓋部 2 の回転軸 A の周りで湾曲する。さらに、突起部 32 は、第 1 の端壁 35、反対側の第 2 の端壁 36、および上壁 37 を備える。上壁 37 は、概して、平面かつ水平である。その中心部において、上壁 37 は、下方蓋部 3 の出口開口部 22 の形状および寸法と同一である、出口開口部 38 が設けられる。

10

【0042】

図 5 に関して以下により詳細に論じるように、上方蓋部 2 の突起部 32 は、下方蓋部 3 の突起部 15 にきつく固定するように構成されるので、外側側方壁 16 および 33、内側側方壁 17 および 36、ならびに上壁 20 および 37 は、それぞれ、一定に平面接触する。しかしながら、円周方向において、上方蓋部 2 の突起部 32 は、下方蓋部 3 の突起部 15 より長い長さを有する。これにより、2つの位置の間で、上方蓋部 2 が下方蓋部 3 に対して回転でき、第 1 の端壁 18、35 または第 2 の端壁 19、36 のいずれかが互いに隣接する。このように、下方蓋部 3 の突起部 15 の端壁 18、19 は、上方蓋部 2 の回転移動を端部で停止する機能をする。同時に、下方蓋部 3 の湾曲した突起部 15 は、上方蓋部 2 の湾曲した突起部 32 を誘導するためのレールのように作用するので、下方蓋部 3 に対する上方蓋部 2 の回転移動を誘導する。この回転移動の間、下方蓋部 3 は容器の固定位置のままであり、上方蓋部 2 は容器および下方蓋部 3 に対して回転する。

20

【0043】

上方蓋部 2 の第 1 の回転停止位置において、すなわち突起部 15、32 の第 1 の端壁 18、35 が互いに接触する場合、上方蓋部 2 の出口開口部 38 は、下方蓋部 3 の突起部 15 の上壁 20 の閉部 21 に対して停止する。特に、この位置において出口開口部 22、38 の間の重なりは存在しない。従って、蓋 1 は完全に閉じ、液体は容器から蓋 1 を通して漏れることはできない。

【0044】

この第 1 の位置から、上方蓋部 2 の側方壁 27 上の対応する標識「閉／開」39 によって示されるように、蓋 1 をその閉位置から開位置にするために、上方蓋部 2 は下方蓋部 3 に対して反時計方向に回転できる。この第 2 の停止位置において、すなわち、突起部 15、32 の第 2 の端壁 19、36 が互いに接触する場合、2つの蓋部 2、3 の出口または消費開口部 22、38 は、互いにそろって配置される。外側開口部 22、38 は同一の形状および寸法を有するので、蓋 1 にわたって生じる消費開口部は、2つの出口開口部 22、38 の各々と同じ形状およびサイズを有する。ここで、使用者は、生じる消費開口部を通して容器から飲料を消費することができる。その後、蓋 1 を、再度、下方蓋部 3 に対して上方蓋部 2 を時計方向に回転させることによってその閉位置にすることができる。

30

【0045】

2つの蓋部 2、3 がそれらの合わせられた位置である場合（例えば図 2～5）、下方蓋部 3 に対する上方蓋部 2 の回転移動はさらに、両方の蓋部 2、3 に設けられるスライドガイド手段 40 によって誘導される。第 1 の実施形態において、図 1 および 2 に示すように、スライドガイド手段 40 は、2つの蓋部 2、3 の円蓋状の蓋領域 10、26 の側方面 11、27 に設けられる。この実施形態において、スライドガイド手段 40 は、上方蓋部 2 の円蓋状の蓋領域 26 の側方壁 27 から内側に突出する間隔をあけた複数の窪み部または凸部 41 を備える。これらの凸部 41 は、下方蓋部 3 の円蓋状の蓋領域 10 の側方面 11 上の対応する窪み部または溝 42 と係合し協働する。これらの溝 42 は側方面 11 から内側に窪み、上方蓋部 2 上の凸部 41 の数に対応している。

40

【0046】

図 1 に示すように、凸部 41 は対応する溝 42 より短い長さを有する。これにより、凸

50

部 4 1 が、溝 4 2 の 2 つの端部のうちの 1 つに到達するまで、溝 4 2 内でスライドすることが可能となり、次いで下方蓋部 3 に対する上方蓋部 2 のさらなる回転を防止する。好ましくは、スライドガイド手段 4 0 および 2 つの蓋部 2、3 の突起部 1 5、3 2 は、両方とも、下方蓋部 3 に対して上方蓋部 2 の同じ回転角度を許容するように適合される。この目的のために、突起部 1 5、3 2 の 2 つの第 1 の端壁 1 8、3 5 が接触する場合、凸部 4 1 および溝 4 2 は、凸部 4 1 が対応する溝 4 2 の第 1 の端部に隣接し、突起部 1 5、3 2 の 2 つの第 2 の端壁 1 9、3 6 が互いに係合する場合、溝 4 2 の反対端に隣接するように、位置決めされ、寸法決めされる。

【0047】

下方蓋部 3 に対する上方蓋部 2 の回転移動を誘導することに加えて、スライドガイド手段 4 0 は、第 2 の機能、すなわち、それらの合わせられた位置で 2 つの蓋部 2、3 を保持することを果たす。この目的のために、下方蓋部 3 が上方蓋部 2 に押し込まれると、凸部 4 1 は溝 4 2 にスナップ式に係合するように適合される。

【0048】

第 2 の実施形態において、図 3 に示すように、凸部 4 1 および溝 4 2 の配置および方向が反転される。この実施形態において、凸部 4 1 は下方蓋部 3 に設けられ、円蓋状の蓋領域 1 0 の側方面 1 1 から外側に突出する。それらは、上方蓋部 2 の円蓋状の蓋領域 2 6 の側方壁 2 7 の内側面の溝 4 2 と協働する。

【0049】

第 3 の実施形態において、図 4 に示すように、スライドガイド手段 4 0 は、下方蓋部 3 の取り付けフランジ 4 の内側に突出するくびれ部 7 と協働する上方蓋部 2 の取り付けフランジ 2 5 の内側に突出するくびれ部 4 3 により構成される。これらの実施形態の各々において、スライドガイド手段 4 0 は、下方蓋部 3 に対する上方蓋部 2 の回転移動を誘導し、スナップ式の係合によってそれらの合わせられた位置において 2 つの蓋部 2、3 を一緒に保持する働きをする。

【0050】

一方で、完全な蓋 1 は、容器の開口端部に開放可能なように取り付けられ得る。特に、下方蓋部 3 の取り付けフランジ 2 5 のくびれ部 7 は、取り付けフランジ 4 の内側の複数の等距離のラッチノブ 4 4 と協働する。これらのラッチノブ 4 4 は、容器の開口端部の湾曲またはロールしたリムの下でスナップ式に係合することができ、取り付けフランジ 4 の湾曲部分 6 に容器のリムを保持する。

【0051】

図 1 および 2 に示すように、複数のウェブ 4 5 が、ラッチノブ 4 4 の間に設けられる。これらのウェブ 4 5 は取り付けフランジ 4 の外側面に突出する。それらは、2 つの蓋部 2、3 がそれらの合わせられた位置になる場合、取り付けフランジ 4 の安定性を向上し、下方蓋部 3 に対する上方蓋部 2 のスライドを容易にする。

【0052】

図 5 は突起部 1 5、3 2 の領域における合わせられた蓋 1 の部分断面図を示す。上記のように、突起部 1 5、3 2 は、それらの外側側方壁 1 6、3 3、それらの内側側方壁 1 7、3 4 およびそれらの上部壁 2 0、3 7 が、それぞれ、一定に平面接触するような形状で、寸法決めされている。このように、下方蓋部 3 の突起部 1 5 は、上方蓋部 2 の回転移動を誘導するために、上方蓋部 2 の突起部 3 2 を支持するレールとして作用することができる。同時に、面の間の平面係合は、突起部 1 5、3 2、特にそれらの上壁 2 0、3 7 の間に液体が侵入するのを防止する。従って、下方蓋部 3 の出口開口部 2 2 の周囲の領域は密閉され、液体の望ましくない漏出が防止され、下方蓋部 3 の出口開口部 2 2 が閉じられると、完全な蓋 1 は液体がこぼれないようになる。

【0053】

突起部 1 5、3 2 の上壁 2 0、3 7 の間の平面接触は、それぞれの取り付けフランジ 4、2 5 の下方端部または下方水平部 9 から実質的に同じ距離 D で平面に配置される上壁 2 0、3 7 によってなされる。図 5 に示すように、上方蓋部 2 の下方水平部 4 6 は下方蓋部

10

20

30

40

50

3の下方水平部9上にあるので、図5における突起部15、32の上壁20、37の両方は、それぞれの蓋部2、3の下方端部によって規定される平面から正確に同じ距離Dを有する。従って、突起部15、32の上壁20、37が締まりばめである場合、上方蓋部2の上壁37に対して一定に押し付けられる下方蓋部3の突起部15の上壁20により、特定の高い程度の液体耐性が達成され得る。異なる実施形態において、上壁20、37の両方を含む平面は、示している蓋1の液体耐性に影響を与えずに、それぞれの蓋部2、3の取り付けフランジの下方端部9、46によって規定される平面に対して傾き得るという事実に注目しなければならない。

【0054】

図2～5において断面図に示すように、上方蓋部2および下方蓋部3は、それらの取り付けフランジ4、25の下方水平部9、46、突起部15、32およびスライドガイド手段40のみで互いに接触する。残りの全ての部分において、すなわち、断面の大部分にわたって、空隙47が2つの蓋部2、3の間に生じる。この空隙47は蓋1の断熱性を著しく向上させる。さらに、蓋1を有する容器が、その容器から飲む目的で傾くと、空隙47は上方蓋部2と容器内の熱い飲料との間に間隔を生じるので、使用者、特にその人の温度に敏感な唇を刺激しないように十分に低い上方蓋部2の温度を維持する。

【0055】

さらに図2～5に示すように、2つの蓋部2、3の両方の下方水平部9、46は、蓋部1の対称軸A、すなわち、下方蓋部3に対する上方蓋部2の回転軸Aから同じ半径距離Rで終端する。図5から明らかなように、2つの蓋部2、3の2つの外側開口部22、38は、回転軸Aから同一の半径距離で配置される。

【0056】

図6は、下方蓋部3の円蓋状の蓋領域10の上面12の拡大図を示す。上面12の凹部14の最も深い点において、すなわち凹部14の中心において、液体排出または液体滴下開口部50が設けられる。この液体滴下開口部50は、凹部14に集められた液体を容器内に戻すことができる。2つの蓋部2、3の間の液体の量を減少させることによって、2つの蓋部2、3の間の液体の望ましくない漏出がより効果的に防止され得る。

【0057】

複数の集中液体排出チャンネル51は凹部14に設けられ、これらの液体排出チャンネル51が液体滴下開口部50の方向に集められ、誘導される。特に、液体排出チャンネル51は、液体滴下開口部50と下方蓋部3の突起部15との間の部分に設けられる。上面図において、液体排出チャンネル51が、90°の角度を有する部分、すなわち凹部14の4分の1を占める部分に設けられる。

【0058】

下方蓋部3の出口または消費開口部22を楕円形で図6に示す。しかしながら、出口開口部22はまた、円形、長方形、または任意の他の所望の形状を有してもよい。

【0059】

図7は、他の状態の上部に積み重ねられたものの2つの合わせられた蓋1を示す。図7に示すように、上側の蓋1の下方蓋部3の円蓋状の蓋領域10の下方端部は、下側の蓋1の上方蓋部2の円蓋状の蓋領域26の側方壁27から外側に突出しているリブ52上にある。これにより、2つの蓋1が、非常にきつく互いに押し下げられないことが確保されるので、互いからの1つの蓋1の取り外しが容易になり、その蓋の変形を防止する。図7に示すように、リブ52は2つの蓋1の重ねられた位置などの位置に設けられ、隙間53は、上側の蓋1の取り付けフランジ4と下側の蓋1の取り付けフランジ25との間に存在する。この隙間53は、空気が2つの積み重ねられた蓋1の間に流れることを可能にするので、取り外す間の2つの蓋1の間の低い圧力の生成を防止する。そうでなければ、取り外すのに大きな力を必要とする。

【0060】

図1に示すように、リブ52は、例えばそれぞれ6つのリブの群で配置される。これらのリブ52の群は凸部41の間に位置する。外側に突出しているリブ52は、積み重ねお

10

20

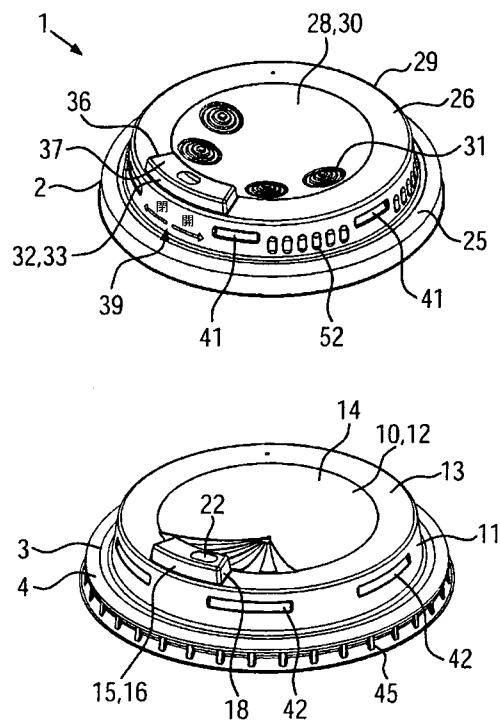
30

40

50

よび合わせられた蓋 1 の入れ子状態から外す (d e - n e s t i n g) ことを容易にするだけでなく、それらはまた、使用者にとっての保持手段としても役立つ。特に、リブ 5 2 は、使用者が、下方蓋部 3 に対して上方蓋部 2 を回転させるために、より容易に蓋 1 に捻る力を与えることを可能にする。

【図 1】



【図 2】

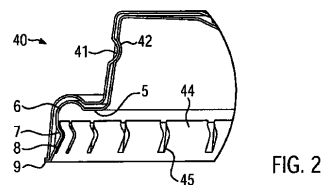


FIG. 2

【図 3】

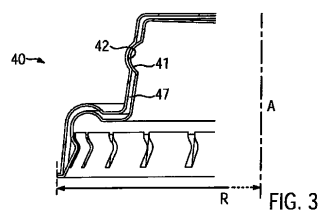


FIG. 3

【図 4】

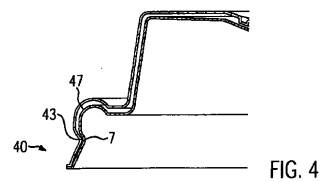


FIG. 4

FIG. 5

FIG. 6

フロントページの続き

(56)参考文献 実開平01-071561 (JP, U)
国際公開第03/047994 (WO, A1)
特開2008-222269 (JP, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
B65D47/26、43/03、77/20